

(群馬県教育委員会)

自立活動は、一人一人の実態に対応した活動であり、よりよく生きていくことを目指した主体的な取組を促す教育活動である。

- ・指導案を作成する上で、年間指導計画、個別の指導計画、流れ図との関連を踏まえ、学習指導案を作成する。
- ・個別の指導計画、流れ図等を添付し、学習指導案との関連を示す。

「流れ図」：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
自立活動編（平成30年3月）で示された。「実態把握か
ら具体的な指導内容を設定するまでの流れの例」のこと。

【児童（生徒）の実態】

- ・「個別の指導計画」及び、「流れ図」記載の「②－2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階」、「③ ①をもとに②－1、②－2、②－3で整理した情報から課題を抽出する段階」の記載内容等と関連させて、本指導案に関わる実態を記述する。
- ＜記載例＞「～は難しいが、（～の支援）により、～できる。」

【評価規準】

- ・「個別の指導計画」及び、「流れ図」記載の「⑧具体的な指導内容を設定する段階」と関連させて記述する。
 <文末例>「～している。」など。

【指導計画】

- ・「年間指導計画」及び「個別の指導計画」と関連させ、単元（題材、主題）の学習活動を、単位時間ごとに一文で簡潔に記述する。

【ICT計画】

- ・児童（生徒）の個別最適な学びや協働的な学びの質を高めるために効果的な場合に使用する。

フォントサイズ…原則：10.5 P、小：9.0 P まで
児童（生徒）数によっては、様式を横方向に使用する。

自立活動學習指導案

單元名 (題材名、主題名)「○○○○○○○○○○○○○○○○」
 ~△△△△△△△△△△△△~

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 〇〇〇〇教室
〇〇立〇〇学校 〇〇〇学級 指導者 〇〇 〇〇 (T1)
〇〇 〇〇 (T2)

I 単元（題材、主題）の構想

1 単元（題材、主題）の目標及び児童（生徒）の実態

児童 (生徒)	児童(生徒)の実態	目標 【指導目標を達成するために必要な項目】
A (○年)	・ ・ ・	・ 【 () 】 【 () 】 【 () 】
B (○年)	・ ・ ・	・ 【 () 】 【 () 】 【 () 】

2 評価規準

A	.
B	.

3 指導計画（全○時間：本時第○時）

時	学習活動
1~2	・ ~~~~~。(あ) (a)
3~4	・ ~~~~~。(い) (b)
5~6	・ ~~~~~。(い)
7~8	・ ~~~~~。(う) (c)
9~10	・ ~~~~~。(あ)
11~12	・ ~~~~~。(あ) (a)

【ICT 活用】 *活用する学習支援ソフト等：(あ) (い) (う)
*活用するコンテンツ等：(a) (b) (c)

【單元名（題材名、主題名）】

単元…各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりを示すもので、学習に順序性があり、計画から実際の学習の展開、まとめを一連の活動として設定しているもの。

題材…教科における系統性を背景にもった学習活動の材料であり、学習活動のまとまりとして設定しているもの。

主題…指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構成する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成されるもの。

※単元、題材、主題を用いるかは、上記のことを踏まえて授業者が判断する。

- ・児童（生徒）にとって分かる、あるいは児童（生徒）が活動をしやすい言葉や言い回しで記載する。
- ・配当時数が多い場合については「～〇〇〇〇～」と副題を付け、本時で取り組む内容やねらい等を記載する。

【目標】

- ・「個別の指導計画」及び「流れ図」記載の「⑧具体的な指導内容を設定する段階」の記載内容を参照し、記述する。
- <文末例> 「～することができる。」など。

【指導目標を達成するために必要な項目】

- ・「自立活動 内容6区分27項目」及び「流れ図」記載の「⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階の項目」を参照し、記載する。

【活用する学習支援ソフト等】

- ・（平仮名文字）の後に、学習をサポートするソフトウェア等を記述する。

【活用するコンテンツ等】

- ・（片仮名文字）の後に、参観者が後に参考とできるよう、学習で使用するWebのURL 情報等を記述する。
例（a）<http://www.nc.gunma~~~~~> 等
- ※（あ）（a）等は、指導計画の中に位置付ける。

- ・「**学習活動＋本時に身に付けさせたい力**」にし、**教師の立場**で、児童（生徒）一人一人について、具体的かつ簡潔に記述する。
- ・どの単位時間でも同じ記述にならないように、単元における本時の位置付けを明確にする。
- ・参観者の視点を踏まえ、「ねらい」を見ただけで、授業の主たる学習活動や目標がイメージできるように記述する。（授業の視点となる）

- ・「ねらい」を達成するために「何を」「どのように」学ぶのかなど、学習の見通しが明確に意識できる児童（生徒）向けの言葉を記述する。

- ・番号を付け、**児童（生徒）の立場**で、具体的かつ簡潔に記述し、時間は大まかに（○分）で示す。
- ・「導入」「展開」「終末」の区切りは実線野線、「展開」を細分化する場合は、点線野線とする。

- ・「2 評価規準」を踏まえ、本時において、「どのような評価材料（A）から、どのような姿を見取り（B）、評価するのか」を明確に記述する。

・ 本時の学習の取組全体を見返し、自分が学習したことについての理解度や変容したこと、学習したことと他の学習や生活などとの関連付けなど、振り返りの視点を踏まえ、記述する。

A: ~~~~~ 中心的な学習活動 (手立て) ~~~~~ を通して、○
○ (本時に身に付けさせたい力) をできるようにする (させる)。

B: ~~~~~ 中心的な学習活動 (手立て) ~~~~~ を通して、○
○ (本時に身に付けさせたい力) をできるようにする (させる)。

[illegible]

- ・ICT活用そのものが、児童（生徒）の学力を向上させるのではなく、ICTを「いつ、どこで、どのように」活用するか、教師がその有用性を明確に捉え、位置付けることが重要となる。※位置付かない場合もある
- ・ICTに関わる活動や指導上の留意点の文章の後に、【★○○】など、活用する機能を簡潔に示す。

■**主な学習活動に位置付ける場合…児童(生徒)の立場**
 【★思考の補助】 【★共有】 【★共同編集】
 【★保存・提出】 【★検索・収集】
 【★撮影・録音・再生】 等

■**指導上の留意点に位置付ける場合…教師の立場**
 【★提示・配布】 【★一覧表示】

- ・本時の「ねらい」の到達に向かって、児童（生徒）の意識が変容していく様子を表現する。

- ・児童（生徒）が、授業の「ねらい」に迫るための教師による**直接的な手立て**（指導・支援）を記述する。

「問いかけ（発問）」「ゆさぶり」「助言」「促し」
「考えの取り上げ方やつなぎ方」「称賛」等

- ・「（児童（生徒）が）～～できるように、（教師が）～～を提示し、～～する。」と、「**目的+手立て**」で記述する。
- ・児童（生徒）の特性に応じた対応や手立て、具体的な教材の提示についても記述する。